

医療者のスライドデザイン

プレゼンテーションを進化させる、デザインの教科書

小林 啓【著】

評者

吉橋昭夫

Designship Do 全体監修

本書は、プレゼンテーションを効果的に行うためのデザイン手法を誰にでもわかりやすく紹介したものである。プレゼンテーションは受け手と知見を共有し新たな行動を促すものであり、そのためには適切なデザインが必要である。私は「情報デザイン」の分野で長く教育研究に携わってきたが、本書は情報デザインのエッセンスを凝縮してスライドデザインに投入したものであり、伝えたいメッセージや情報をスライドとして具体化するために必要な内容が存分に盛り込まれている。

以下は、各 Chapter の概要である。

スライド作成はプレゼンテーションで伝えるべき明確なメッセージと情報を組み立てていくプロセスであり、スライドの表現のテクニックだけを追っても良いプレゼンテーションにはならない。著者は、「Chapter 1 準備をする」において、いきなりスライドのデザインを始めるのではなく準備が重要であると述べ、プレゼンテーション全体をデザインすること、明確なメッセージを考えること、認知特性を考慮することなどについて解説している。

続く Chapter 2～4 では、視覚伝達(ビジュアル・コミュニケーション)のテクニックを用いて情報を効果的に伝える方法を紹介し、「Chapter 2 整える」、「Chapter 3 余白」、「Chapter 4 配色する」、と順を追ってプレゼンテーションで情報を的確に伝えるために必要な考え方とテクニッ

クを解説している。医療情報を扱ったスライドの例を使って説明しているためそれぞれの表現テクニックが理解しやすく、この点で本書は一般向けのいわゆるビジネスプレゼンテーションやグラフィックデザインの解説書とは一線を画していると言える。

「Chapter 5 画像にする」では医療者のプレゼンテーションで使われることの多い画像の効果的な使い方や医療データの見せ方、グラフ表現などについて留意点とテクニックについて述べ、「Chapter 6 時間を操る」はアニメーションの適切な使い方を解説する。

「Chapter 7 デザイン実例集」は、すぐに使えるスライドデザインの事例集である。本書の QR コードからダウンロード可能な事例集は改善前と改善後のデザインを比較できるため、スライドデザインの意味や改善による効果がわかりやすい。

「Chapter 8 オンラインプレゼンテーション」は、オンラインでの講演や講義、プレゼンテーションの準備や注意事項、効果について述べておりこれらの知識もすぐに活用できるだろう。

「Chapter 9 医療とデザインの可能性」では、日本におけるデザインの認識の変化を紹介した上で、医療とデザインの可能性について考察しデザインに対する新たな視点を示している。

著者は、医療者に向けてプレゼンテーションの効果を高めるため



の多くの知見を提供する。受け手の認知負荷を減らすためのデザイン技法や、情報を伝えるための基本的な考え方が詳細に解説されており、医療者が自身の知識や経験を他者に向けてわかりやすく伝えるための指針となる内容である。事例集を参照しながら自身のスライド作成に応用することで、デザインの効果を実感できるだろう。さらに、オンラインでの情報伝達が重要になっている現代において、適切なデザインを通じて受け手とのコミュニケーションを円滑に行うための助けとなる。

本書は医療者がプレゼンテーションを通じて情報を的確に伝えるための実践的なガイドとなり、知識を深めるだけでなくそのスキルを生かすことができる一冊である。また、得られるスライドデザインの知見とスキルは、プレゼンテーション以外にも市民や患者・家族への医療情報の提供や説明などにも生かすことができ、さまざまなコミュニケーションの場面への応用が期待できるものである。

B5 変型・200 頁

2023 年 2 月

定価：3,740 円

(本体 3,400 円+税 10%)

[ISBN978-4-260-04773-9]

医学書院刊